

個 体 情 報 の 見 方 (左ページ)

1 JRA育成馬の06

牡・黒鹿 父 アラムシャー

入厩日	07年8月17日		月 日	病 歴
馴致開始	07年9月17日		08年	3月10日 左前管骨々膜炎(既往・X線写真あり) ③
測 尺	10月末日 → 4月15日			
体 高	151.0	159.0		
胸 囲	172.0	181.0		
管 囲	19.5	20.5		
体 重	434	① 474	馬装具	特殊鞍下(中抜き) ④
ゲート	目標クリア ②		装 蹄	両前エッグバー・両後タイロックス ⑤
悪 癖	ゆう癖 ②		その他	右陰辜・注射注意 ⑥

育成場からのコメント

⑦
大柄な馬体であり実が入るまでじっくりと乗り込んできた。春を迎え、馬体の充実とともに動きに軽快さと躍動感が出てきた。近親には芝の中距離馬の活躍が多く、芝での活躍を期待。

最近の調教概況

* 印:屋内坂路馬場を使用もしくは併用

月日	3/24	3/25	3/26	3/27	3/28	3/29
駈歩(m)	2800	3200	1600	2800	2800	1600
タイム						
月日	3/31	4/1	4/2	4/3	4/4	4/5
駈歩(m)	2800	1600	1600	*1900	1600	1600
タイム				17.7-16.1		
月日	4/7	4/8	4/9	4/10	4/11	4/12
駈歩(m)	2800	*1900	2400	2600	2200	1600
タイム		14.9-13.7			17.9-15.4	
月日	4/14	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19
駈歩(m)	2800	2600	1200	1200	1200	1200
タイム		14.7-13.4				

※ 中段:総駈歩距離(駈歩は2, 3本に分けて実施)

下段:スピード調教時の最終2ハロンのタイム

個体情報の見方については、2～5ページをご覧ください。

左ページの解説

- ① ゲート目標の達成度
目標:前扉を閉めた状態で入れて、
後ろ扉を閉めて駐立し、常歩で出ること
- ② さく癖、旋回癖、ゆう癖、身喰いなどの悪癖
- ③ 育成期間中に発症し、休養を要した疾病、ならびに
検査により確認した特筆すべき疾病
- ④ 現在装着している特殊なハミ、鞍下やメンコなど
- ⑤ 装蹄療法として使用している特殊な蹄鉄
- ⑥ 馬の取り扱いに関する注意事項やその他の特記事項
- ⑦ 育成担当者からのセールスポイント

※③に(X線写真あり)と記載されている疾病については情報開示室で
写真の閲覧が可能です。

なお、全馬の球節部・飛節部のX線写真、内視鏡像および屈腱部
エコー像等もご覧になれます。

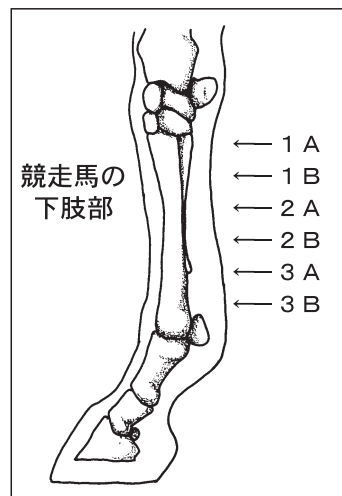
右ページの解説

① ノドの内視鏡検査所見

(解説は6ページを参照下さい)

② 屈腱部のエコー検査所見

毛を刈り、馴致開始前と調教が進んでからの2回検査しました。屈腱部6カ所(1A～3B:右図参照)における横断像と縦断像を観察し、その評価を記載しました。



③ 化骨評価

腕節部の骨端線の化骨評価をグレードA～Cで示しています。

グレードA: 骨端線が完全に閉鎖

グレードB: 骨端線中央部が閉鎖

グレードC: 骨端線が残る

※検査時の各馬の月齢をあわせて示しています。

※標準的なサラブレッドでは

25ヵ月齢で骨端線が完全に閉鎖するとされています。

④ 種子骨評価

球節部の種子骨、全8カ所の評価をグレード0～3で示しています。

グレード0: 骨に異常形成された線状陰影を有さず、辺縁の輪郭も概ね正常

グレード1: 線状陰影を1～2本有する

グレード2: 線状陰影を3本以上有する、もしくは辺縁の輪郭が不整

グレード3: 線状陰影を多数有し、骨の輪郭が不規則
もしくは骨嚢胞を有する

⑤ 馬体の写真 (撮影時期: 3月下旬)

個体情報の見方 (右ページ)

購買時		744.5 万円(税込)		騎乗供覧タイム		.	.	
検査項目	実施日	LH	DDSP	PLH	AE	ELE		
バド (内視鏡)	10月26日	1	1	1	2	0		
	3月22日	1	(LH再検査)					
	特記事項							

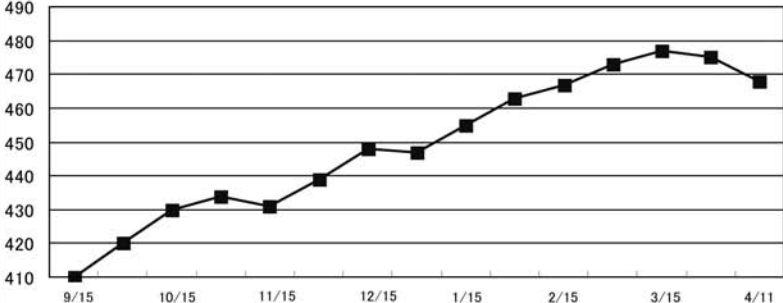
検査項目	検査内容	実施日	検査肢	評価
屈腱 (エコー)	定期検査①	10月27日	両前肢	異常なし
	定期検査②	3月10日	両前肢	異常なし(左前肢皮下の肥厚)
	特記事項			

化骨評価	A
(検査時: 24か月齢)	

種子骨評価	左(外/内)	右(外/内)
前肢	1 / 0	1 / 1
後肢	0 / 0	0 / 0



体重の推移



日付	体重(kg)
9/15	410
9/25	420
10/15	430
10/25	435
11/15	430
11/25	438
12/15	448
12/25	445
1/15	455
1/25	463
2/15	467
2/25	473
3/15	478
3/25	475
4/11	468

個体情報の見方については2～5ページをご覧ください。

日高・宮崎育成牧場



ノドの内視鏡検査 解説

ノドの内視鏡検査において観察された各項目の評価をグレード0～3で示しています。グレード0が最もノーマルな状態です。

○喉頭片麻痺（LH）

- グレード0（Ⅰ）：左右披裂軟骨の動きが同時に起こる
- グレード1（Ⅱa）：左右披裂軟骨の動きが同時に起こらないが、十分な外転が可能
- グレード2（Ⅱb, Ⅲa, Ⅲb）：左右披裂軟骨の動きが同時に起こらず、十分な外転が不可能
- グレード3（Ⅳ）：左右披裂軟骨の動きに同調性がなく、左の動きが不十分

○軟口蓋背方変位（DDSP）

- グレード0：嚥下を促しても発症しない
- グレード1：嚥下により発症するが、続く嚥下1回で復する
- グレード2：嚥下により発症するが、続く嚥下2回以上で復する
- グレード3：嚥下を伴わなくても容易に発症する

○咽頭リンパ過形成（PLH）

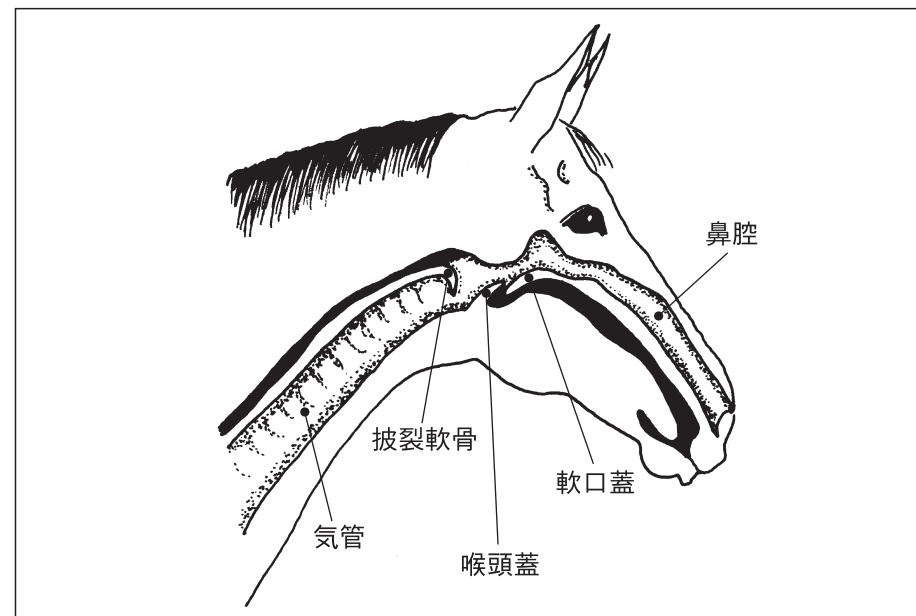
- グレード0：不活性なリンパ球のみ散在
- グレード1：比較的大きなリンパ球が散在
- グレード2：比較的大きなリンパ球が密在
- グレード3：水腫状のろ胞で咽頭部が埋まる

○喉頭蓋の異常（AE）

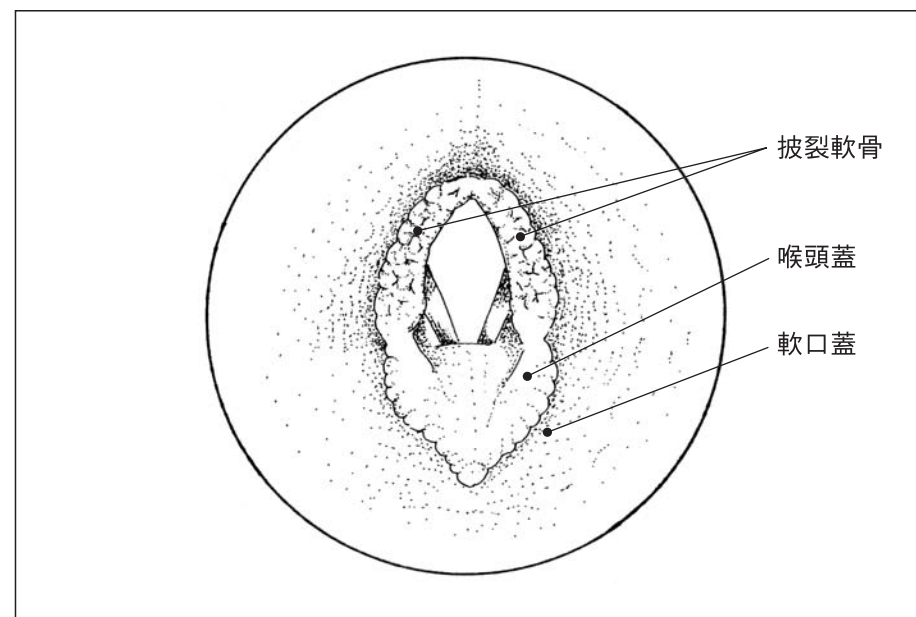
- グレード0：喉頭蓋背面上の凸部、辺縁の皺が明瞭
- グレード1：喉頭蓋背面上の凸部が不明瞭
- グレード2：喉頭蓋背面上の凸部および辺縁の皺が不明瞭
- グレード3：喉頭蓋が非常に薄いあるいは小さい

○喉頭蓋の挙上（ELE）

- グレード0：挙上がなく、気道の2/3以上が観察可能
- グレード1：挙上がわずかにあり、気道の2/3～1/2が観察可能
- グレード2：挙上があり、気道の1/2～1/3が観察可能
- グレード3：挙上があり、気道の1/3以下が観察可能



呼吸時の上気道



ノドの内視鏡像